

1 この科目の構成について (改行は Alt + Enter)

教科	理 科	科目	化学基礎	単位	3 単位
対象コース	カレッジコース SA(文系)	コース	対象クラス	2 年	2 組
使用教科書	数研出版 改訂版 新編化学基礎				
使用副教材	数研出版改訂版化学基礎準拠ノート				

2 この科目の目標・学習内容・学習方法について (改行は Alt + Enter)

学習目標：この科目を学習して何を身につけてほしいのか

化学は物質について学ぶ学問である。私たちの生きている世界は物質によって構成されている。これまで人類は物質の性質についての知見を広げ、その知識を生かして文明を発展させてきた。また、物質の性質に対する考慮の不足から人類そのものの命を脅かす問題が生じてきたことも事実である。これから、私たちがより豊かに、より長く発展していくためには物質について、より広く深い知識を身に付けていくことが不可欠である。物質について学ぶ基礎入門として基礎的な物質の性質について学んで欲しい。

学習内容：この科目で学習する大まかな内容

- ・ 物質の構成と化学結合
- ・ 物質の変化（酸と塩基の反応、酸化還元反応）

学習方法：この科目を学校と家庭でどのように学習すればよいのか

(1) 学校

教科書を中心に基本的な問題演習を通して、現象についての見方を説明し、実際に問題解法に結びつける作業を行う。

(2) 家庭

予習 化学基礎準拠ノートを使用。分からない部分については教科書の索引を活用。
分からないときは模範解答を参考にする。

復習 その日やっつけてしまった問題に再度挑戦する。

3 この科目の評価方法について (改行は Alt + Enter)

評価方法：何を使って評価するのか

1. 年間5回実施される定期考査
2. 長期休みに配布する宿題の学習状況
3. 授業時に行う小テストの取り組み
4. ノートの整理状況。
5. 実験などを行った際のレポートの提出状況とその内容。

評価における定期考査の割合

60 %

4 この科目の評価の観点について (改行は Alt + Enter)

評価の観点：この科目の学習内容はどのような基準で評価されるのか

(1) 関心・意欲・態度

授業における板書、演習問題への取り組み、発言が積極的であるか。課題の提出状況とその内容が適当であるか。

(2) 思考・判断

各分野における重要事項を体系的に位置づけ、様々な現象・実験事実と結びつけ、その仕組みを総合的に考察できるか







(3) 技能・表現




基本的な実験器具の取り扱いができるか。実験、観察、授業を通じて考察されることを説明できるか。





(4) 知識・理解

各分野における重要事項を正しく理解し、一般的な法則性と、その例外を区別できるか。

5 この科目の学習計画について (改行は Alt + Enter)

年間学習計画：この科目でいつ・何を・どのように学ぶのか				重視する評価の観点			CHECK			
学期	月	学習の項目	学習の内容	関	思	技	知	○△×		
1	4	<p>序章 化学と人間生活</p>    <p>第1編 物質の構成と化学結合</p> <p>第1章 物質の構成</p> <p>1 混合物と純物質</p>   <p>2 物質とその成分</p>  <p>3 物質の三態と熱運動</p> <p>第2章 物質の構成粒子</p> <p>1 原子とその構造</p> <p>2 イオン</p> <p>3 元素の周期表</p>	<p>・人間生活の中の金属やプラスチックなど、化学が活用されているものに興味を持つ。</p> <p>・日常生活において利用されている食品添加物や洗剤などの物質の有効性や危険性について興味を持つ。</p> <p>・様々な物質やエネルギーに関して、化学の役割を理解するとともに持続可能な生活のために自分自身ができることについて考える。</p> <p>・身のまわりの物質が純物質や混合物に分類されることに興味をもつ。</p> <p>・純物質と混合物の違いが何であるか説明できる。</p> <p>・混合物をろ過や蒸留、再結晶、クロマトグラフィーなどにより純物質に分けることができる。</p> <p>・混合物の分離操作として、ろ過、蒸留、分留、昇華、再結晶、抽出、クロマトグラフィーの方法をあげられる。</p> <p>・原子と元素の意味や元素という概念に興味をもつ。</p> <p>・いろいろな物質について、単体と化合物に分類することができる。</p> <p>・炭素、酸素、リン、硫黄の同素体を理解している。</p> <p>・代表的な成分元素の検出法を理解している。</p> <p>・物質の三態変化は、構成粒子の状態がどのように変化して起きているのか興味をもつ。</p> <p>・物質を加熱したり冷却したときの、温度変化をグラフに表すことができる。</p> <p>・気体分子の熱運動を視覚的に示すことができる。</p> <p>・絶対温度とセルシウス温度の関係を理解している。</p> <p>・原子は粒子から構成されていることに気づく。</p> <p>・同じ元素でも粒子の構成が異なるものがあることに興味をもつ。</p> <p>・原子について、どのような粒子から構成されているかを説明することができる。</p> <p>・電子が負の電荷を帯びた粒子であることを示すことができる。</p> <p>・原子の構成粒子である陽子・中性子・電子の個数・電荷・質量の関係について理解している。</p> <p>・原子とイオンの違いについて疑問をもつ。</p> <p>・原子の電子配置から、その原子がどのようなイオンになりやすいか判断できる。</p> <p>・イオンのなりやすさについてイオン化エネルギーや電子親和力の値の大小との関係性を理解している。</p> <p>・イオン化エネルギーの概念と周期表上での傾向を説明できる。</p> <p>・周期表上の元素の配列のしかたについて興味をもつ。</p> <p>・周期表の中に周期律が見いだせること、周期律は価電子の数の周期的な変化によることに気づく。</p> <p>・マグネシウムとアルカリ土類金属元素の性質の差異を実験により確認することができる。</p> <p>・元素の、典型・遷移、金属・非金属、陽性・陰性などの分布、および同族元素について理解している。</p>	○	○	○	○	○	○	○

年間学習計画：この科目でいつ・何を・どのように学ぶのか				重視する評価の観点				CHECK
学期	月	学習の項目	学習の内容	関	思	技	知	○△×
5		第3章 粒子の結合 1 イオン結合とイオンからなる物質 	<ul style="list-style-type: none"> 身のまわりにあるイオン結晶の性質に興味をもつ。 イオンからなる物質は分子をつくらないため、分子式ではなく組成式で表すことに気づく。 イオンからなる物質の特徴を示すことができる。 イオン結晶を構成する陽イオンと陰イオンの種類から、イオン結晶の名称と組成式の組み立て方を理解している。 	○				
		2 分子と共有結合	<ul style="list-style-type: none"> 分子からなる物質の性質に興味をもつ。 価標を考えることによって分子の構造を予想できる。 分子の中の原子どうしの結合を、模型などを用いて表すことができる。 さまざまな分子を電子式、構造式で表し、その構造を考えることができる。 分子には極性分子と無極性分子があることに興味をもつ。 分子の形を予想して、極性分子と無極性分子に分類できる。 極性を電気陰性の違いによる電荷のかたよりと分子の形から理解している。 	○				
		3 共有結合の物質 	<ul style="list-style-type: none"> 分子からなる物質、共有結合の結晶、高分子化合物にどのような物質があるか興味をもつ。 共有結合の結晶の性質を、共有結合の強さ、結晶構造電子から説明させる。 ダイヤモンド、黒鉛中の原子の結合を分子模型など表せる。 分子からなる物質、共有結合の結晶、高分子化合物の構造・粒子間にはたらく力とその性質の関係を理解している。 	○				
		4 金属結合と金属 	<ul style="list-style-type: none"> 金属特有の性質に興味をもつ。 金属特有の性質は、金属結合が自由電子によるものであることが原因であることに気づく。 金属もイオン結晶や共有結合の結晶と同じように、組成式で表されることを理解している。 	○				
6		第1回考査						
		第2編物質の変化 第1章物質と化学反応式 1 原子量・分子量・式量	<ul style="list-style-type: none"> 同じ原子でも異なる質量をもつ同位体に興味を持つ。 原子1個がはいかに小さなものであるかを実感する。 異なる質量の原子が混在する場合、その平均の質量を表す方法を見いだすことができる。 質量そのものではなく、基準に対する相対質量で表すことを理解している。 原子量・分子量・式量の定義を示すことができる。 原子の相対質量をもとに、分子の質量を考えることができる。 	○	○			
		2 物質量	<ul style="list-style-type: none"> ある質量の物質の中に、原子や分子などが何個含まれているかを考えることができる。 モル質量の概念を使い、粒子数・質量と物質量に関する計算ができる。 気体の場合の1molの体積は共通であることを理解する。 	○				
2		3 溶液の濃度	<ul style="list-style-type: none"> 計算により濃度を求めることができる。 あるモル濃度の水溶液をメスフラスコなどを使用して 	○				

年間学習計画：この科目でいつ・何を・どのように学ぶのか				重視する評価の観点	CHECK			
学期	月	学習の項目	学習の内容	関	思	技	知	○△×
			調製することができる。 ・質量パーセント濃度，モル濃度の意味を理解している。		○			○
7		4 化学反応式と物質質量	・多くの化学変化は化学反応式であらわされることが分かる。 ・化学反応式をもとに量的な関係をつかむことができる。 ・正しい化学反応式が表せる。 ・化学反応式の係数から，物質の量的変化を質量や気体の体積の変化でとらえることができる。 ・化学反応における，物質質量，粒子の個数，質量，気体の体積などの量的な関係を，化学反応式から読み取ることができる。	○				○
		第2回考査						
8		第2章 酸と塩基の反応						
		1 酸・塩基	・酸とは何か，塩基とは何かに関心をもつ。 ・酸・塩基の性質をH ⁺ とOH ⁻ で考える方法と，H ⁺ の授受で考える方法から酸と塩基をきわめられる。 ・H ⁺ の授受が実際に行われている反応を確かめてみることができる。 ・酸・塩基の価数，電離度などの考え方があることを理解している。	○				○
								
		2 水の電離と水溶液のpH	・水もまた一部が電離しているということに興味をもつ。 ・pHの値から酸性，塩基性の強弱が判断できる。 ・水素イオン濃度と水酸化物イオン濃度の関係からある水素イオン濃度の水酸化物イオン濃度を求められる。 ・身のまわりの物質の水溶液のpHを知る方法を身につけている。 ・水溶液中のH ⁺ 濃度をpHで表す方法を理解している。	○				○
								
		3 中和反応	・水もまた一部が電離しているということに興味をもつ。 ・酸・塩基の価数は中和する際の量的関係に重要な要素を占めることに気づく。 ・中和滴定の実験により濃度未知の酸や塩基の濃度を求めることができる。 ・中和の量的関係を数値計算により求めることができる。 ・滴定曲線におけるpH変化，中和点，使用できる指示薬について理解している。	○				○
								
9		4 塩	・同一の酸と塩基から生成する塩でも，複数の種類の塩が生じることがあることに気づく。 ・塩の水溶液の酸性・塩基性が判断できる。 ・塩の水溶液をつくりpHメーターなどにより，pHを測定することができる。 ・酸性塩・塩基性塩・正塩などの分類があることを理解している。	○				○
								
		第3回考査						
10		第3章 酸化還元反応						
		1 酸化と還元	・酸素と化合することが酸化，酸素を失うことが還元であることに気づく。 ・酸化還元反応には必ず電子の移動が伴うことに気づく。 ・酸化数を求めることによって酸化還元を考察することができるようになる。 ・電子の授受が酸化還元の本質であることを理解している。	○				○

【SDGsの各ターゲットについて】
ちょっとだけ詳しく内容を知りたい方は、アイコンをクリック



【道徳教育について】
高校の道徳教育についてちょっとだけ知りたい方は
アイコンをクリック

道徳

※FSVに接続してる場合のみ

下のアイコンは、該当する「学習の内容」の場所に
コピーしてご使用下さい

SDGsターゲットアイコン



道徳教育アイコン



下のアイコンは、該当する「学習の内容」の場所に
コピーして下さい

SDGsターゲットアイコン



道徳教育アイコン

